

令和元年度 事業報告書

社会福祉法人 洗心和合会

児童養護施設 洗心寮

事業報告の概要

1 施設整備

- (1) 児童養護施設における入所者や利用者に対して、安全確保・サービスの質を図る為、以下の整備事業を行った。

①

事業名称 樹木伐採工事

目的 敷地内(児童の生活には影響の無い場所)にて、以前の大雨災害による土砂崩れに関する樹木の伐採工事。

事業費 690,909 円

効果 洗心寮敷地内の安全確保・環境改善が図られた。

②

事業名称 法面保護工事

目的 敷地内(児童の生活には影響の無い場所)にて、以前の大雨災害による土砂崩れに関する新たな法面工事。

事業費 2,480,000 円

効果 洗心寮敷地内の安全確保・環境改善が図られた。

事業名称 居住棟間仕切り工事

目的 男子等の玄関を間仕切り、分離を可能とした棟を運用するため。

事業費 655,000 円

効果 今後の事業展開により小規模グループホームとして運用可能な構造となった。

③

事業名称 デッキ改修工事

目的 「地域交流センターこもれび」のデッキ老朽化改修、安全に遊ぶことのできる場所及び野外ステージ等として利用をするため。

事業費 981,000 円

効果 児童の安全確保、10月集穫のまつりに活用できた。

2. 施設運営について

- (1) 地域小規模児童養護施設の「若竹」の円滑な運営

年間を通して、定員内の5名を常時在籍。担当職員を3名配置し、本園より副主任職員等のサポートを受けることにより、運営に関して試行錯誤を繰り返し図る。

- (2) ショートステイ事業(子育て短期支援事業等)

平成 31 年度について、基山町を含む近隣 5 市町と子育て短期支援事業契約を結ぶ。

① ショートステイ実績

久留米市 5 家庭、小郡市 1 家庭、吉野ケ里町 1 家庭からの依頼。3 市町から、延べ 21 名、延べ日数 64 日、児童の短期預かりを行う。

月平均 5 名の利用。

(3) 児童中心主義をあげての権利擁護の推進

入所児童の権利やニーズを表明することが難しい場合が多い状況を踏まえて職員が代弁・養護する観点から、今年度は CAP 施設内職員研修、生活支援の位置付け等、権利擁護・専門性・児童とのコミュニケーション能力の向上を目指して外部講師を招いて研修を行っています。また、入所児童につきましても CAP 児童プログラムを受けています、CAP プログラムの他・佐賀県版権利ノートに基づいて内容を学び、それぞれが権利ノートを所持している。

※詳細別紙 1 平成 31 年度 専門性と資質を図る研修会 参照

(4) 小舎制の養育施設として、家庭的支援の研究と実践

別地域での拠点作り。地域との関わりも徐々に増える中、地域の高齢化によって地域行事の内容変化も見られている。今後、行事の参加や新たな地域の中での職員の役割等、児童福祉施設としてできることを提供して、社会資源として活用して頂くことを目指しました。

(5) 食育調理研究と実践

従来からの手作りおやつ・各家での児童に対しての調理実習の提供に加えて、地域小規模児童養護施設若竹が完全調理のため、年度当初から若竹職員の調理指導のサポートを行う。食育・食の安全を含めて地域小規模児童養護施設での実践。

(6) 心理療法と生活臨床の協同を図る

心理職員と施設職員の協同を図り児童の心身の安定とケア効果の向上を目指す。

対象児童 18 名に対して、毎週及び隔週にて心理療法を実施。実施した内容について、随時、月 2 回のケースカンファ・部会を通してアセスメントや情報の共有化を図り、共同して養育にあたっている。

3. 民間と協働した里親制度促進事業

・「目的」

社会的養護が必要な児童を家庭的な環境下で育てることができるよう、県

民への高い拡散力・浸透力を目指し、効果的な里親制度の普及促進。

・「現状と課題」

社会的養護については、原則として里親等の家庭養護を優先し、施設についても小規模で家庭的な養育環境としていくことが求められており、「佐賀県家庭的養護推進計画」を平成27年3月に策定し、令和11年度までに里親委託率を33%とすることを目標とする。

本県の里親委託率は平成27年度末で15.5%、平成28年度末で19.3%、平成29年度で22%と増加し、全国の委託率を上回った。しかし、今後の目標達成のためには、これまで以上に広く県民に制度の周知と理解を求めていく必要があり以下の事業を実施。

※詳細別紙 2 民間協働型里親制度普及促進事業まとめ 参照

4. 包括的な里親支援機関（フォスタリング機関）新設にかかる助成事業

・「目的」

社会的養護が必要な児童を家庭的な環境で養育できるよう、県民への拡散力・浸透力に力を入れ効果的な里親制度の普及を行う。

この事業で、効果的なリクルート方法や、アセスメント方法により成果を上げ、佐賀県からのフォスタリング事業の受託を目指す。

・「目標」

一般市民の方々に里親制度の理解を広め、里親に関心を持つ人たち、担い手となるべき里親を増やし、児童の状況に応じたきめ細やかな里親選択を可能にすること。リクルートからトレーニングまで一貫したチーム養育を可能にすることを目標に以下の事業を実施。

「事業内容」

1. 里親リクルート

a. 相談ブースの設置、街頭啓発

月	回数	チラシ等配布枚数	主な開催場所
4月	1回	約60枚	フレスポ鳥栖
5月	7回	約620枚	モラージュ佐賀 吉野ヶ里温泉卑弥呼の湯 など
6月	3回	約420枚	モラージュ佐賀 神埼こども祭り など
7月	6回	約560枚	ゆめマート Aコープ城南店 など
8月	5回	約290枚	モラージュ佐賀 フレスポ鳥栖 など
9月	3回	約300枚	モラージュ佐賀

10月	3回	約 850 枚	モラージュ佐賀 サガン鳥栖試合 など
11月	2回	約 95 枚	アスタラビスタみやき店 吉野ヶ里温泉卑弥呼の湯
12月	3回	約 330 枚	フレスポ鳥栖 吉野ヶ里温泉卑弥呼の湯
1月	4回	約 1120 枚	フレスポ鳥栖 アスタラビスタみやき店 など
2月	4回	約 700 枚	フレスポ鳥栖 アスタラビスタみやき店 など
3月	3回	約 230 枚	マックスバリュ鳥栖村田店 アスタラビスタ吉野ヶ里店 など

b. 出前講座の開催

月	回数	参加人数	主な開催場所
4月	1回	8名	みやき町民生員会長会
5月	6回	126名	神埼市ファミリーサポート養成講座 など
7月	2回	65名	鳥栖市地区民生員会 など
2月	2回	160名	教育講演会 など

c. 里親フォーラム開催

日 時：9/29（日）

会 場：モラージュ佐賀 北館1階モラージュプラザ

テーマ：絆 里親啓発トークイベント ～さとおやのこと一緒に考えてみませんか～

ゲスト：TIM（レッド吉田・ゴルゴ松本）

内 容：トークショー/さとおやパネル展/里親相談コーナー

参加者：約 250名（アンケートの実施とその後の資料送付）

d. CMの作成、放送

問い合わせを狙ったCMの作成と放送（11～12月）

問い合わせ件数：4件

e. 広報媒体の作成

街頭啓発での配布、店舗へチラシ、ミニカードを設置して使用。

- ・ A4 チラシ 5万部
- ・ ミニカード 2万部
- ・ フォトブック 1千部
- ・ 写真パネル、車両用マグネット

f. カフェでの説明会

6月～9月（合計12日間）で開催。

開催場所：佐賀市 モラージュ佐賀内 タリーズコーヒー
鳥栖市 フレスポ鳥栖内 カフェドクリエ

参加者：16名

g. 初回の個別制度説明会、児童相談所等への連携

リクルートした候補者に対して制度説明 19件

児童相談所への同行申し込み 8件

2. 里親トレーニング

a. 委託里親、未委託里親、候補者に向けての任意研修会

日	テーマ	講師	参加者
5/19	里親のメンタルケア	洗心寮臨床心理士 大木 智尋氏	6人
9/5	発達障害を理解する	九州龍谷短期大学 鬼塚良太郎氏	10人
11/23	生い立ちについて	キーアセット 中村みどり氏	19人
3/1	思春期の子どもと接し方	鳥栖西中学校 嘉村 和久氏	5人

※詳細別紙 3 包括的な里親支援機関にかかる助成事業まとめ 参照

5. 佐賀県オレンジリボンたすきリレー事業

児童虐待の増加や子ども虐待にて死亡する事例が発生し社会の大きな問題となっている。分離保護が必要な児童を養育している県内の児童養護施設及び関係機関が中心となり、「子ども虐待防止」の象徴としての「オレンジリボン」を直接配布する啓発活動を行った。

- ・期 間：令和元年10月28日～11月5日迄
- ・実施内容：佐賀県児童養護施設協議会の支援を受け、県を始め13市町村の基礎自治体及び関係機関、県内児童養護施設をオレンジリボン配布、啓発しながら巡る。徒歩、自転車にて移動し1100枚以上のオレンジリボンを県民の方々に手渡し実施。